

総合特別区域評価・調査検討会における評価結果の概要(令和2年度)

2. 分野別状況 (2) 地域活性化総合特区 ④ 観光等分野(1/4)

	総合評価 (IとIIとIIIを1:1:2の割合で計算)	I	II	III	総合評価に係る専門家所見(主なもの)
		目標に向けた取組の進捗	支援措置の活用と地域独自の取組の状況	取組全体にわたる事業の進捗と政策課題の解決	
京都市地域活性化総合特区 (京都市、京都府)	4.2	4.4 進捗度 ・再来訪意向及び紹介意向 99% ・年間観光消費総額 -% ・特定伝統料理海外普及事業における外国人料理人の延べ受入れ人数 100%	4.5 規制の特例等 ・特定伝統料理海外普及事業等 財政支援等 ・総合特区支援助利子補給金 地域独自の取組 ・京町家まちづくりファンド等	4.0	・再来訪意向や観光消費額といった観光客に関するデータを用いているが、サブ指標として住民側のデータ(例えば、市政総合アンケート調査結果「京都観光について」)を用いながら、「ほんもの」の観光が展開できているかを捕捉する方法も有効ではないか。 ・特定伝統料理海外普及事業においては、研修受け入れ人数と共に、研修終了後の外国人料理人による普及が肝要なので、その成果指標についても一定の尺度があれば良い。 ・アフターコロナに向けた各ステージに対応した「京都観光振興計画2025」の策定については、今取り組むべき事例のようであり高く評価。 ・美しい町並みと歴史的風土の保全・活用については、既存の補助制度による財政支援に加え、地域としても多数の事業を実施しており、総合的に推進が行われているという点は大変評価できる。景観・環境づくりは長い時間をかけてじっくり取り組む必要があるもので、それを多様な関係者による取り組みで推進していることは、我が国におけるトップランナーとして他地域に模範を示していくことが期待される。他方、こうした取り組みの結果、観光者の行動や意識といった観光の実践がどのように変化し、地域の課題解決に結びつか、についてはもう少し具体的な目標像の設定と、それを推進するための方策の検討が望まれる。

総合特別区域評価・調査検討会における評価結果の概要(令和2年度)

2. 分野別状況(2)地域活性化総合特区 ④観光等分野(2/4)

	総合評価 (IとIIとIIIを1:1:2の割合で計算)	I	II	III	総合評価に係る専門家所見(主なもの)
		目標に向けた取組の進捗	支援措置の活用と地域独自の取組の状況	取組全体にわたる事業の進捗と政策課題の解決	
千年の草原の継承と創造的活用総合特区(阿蘇市、南小国町、小国町、産山村、高森町、南阿蘇村、西原村、山都町)	3.7	3.8 進捗度 ・草原管理面積、野焼き再開 牧野数 99% ・牛馬の放牧頭数 《定性的評価》 ・観光入り込み総数、阿蘇地域の宿泊客数 《定性的評価》 ・あか牛肉料理認定店数 67% ・草原体験利用者数 《定性的評価》	3.8 地域独自の取組 ・ASO環境共生基金事業 ・入湯税込観光活用事業 等	3.5	<p>・あか牛肉料理認定店数が減少している点は残念ではあるが、一方で、認定基準の厳格な運用も重要である。昨年度実施したように、定期的な認定の見直しは必要。</p> <p>・既にエコツーリズムの観点でも先進的に取り組んでおられるが、今後こうした自然コンテンツやその文化保護活動そのものが観光におけるSDGs的価値として一層高まることが想定され、教育コンテンツへの昇華による若年層への啓発と共に、観光インフラ整備やコンテンツ開発には地域外の理解者・協力者を得ていくことが肝要である。</p> <p>・コロナ禍の影響による点は、収束後に向けてどのようなステップで進めて行きたいのか、その構築を期待。</p> <p>・阿蘇地域については国内的には一定の認知を有しており、また産品としてあか牛の消費拡大をはかる、といった点は、地域のブランド化をより一層進める重要な取り組みである。しかし、活用面で見ると、草原体験利用者数は目標が数千人、かつ近年については地元小学生を対象としたり、動植物園への出前講座など、地域への来訪者増に大きく寄与するようなものとはなっていない。結果的に、維持の負担のみが増していくことが想定されることから、活用方策については大胆な見直しを図っても良い。</p>

総合特別区域評価・調査検討会における評価結果の概要(令和2年度)

2. 分野別状況 (2) 地域活性化総合特区 ④ 観光等分野(3/4)

	総合評価 (IとIIとIIIを1:1:2の割合で計算)	I	II	III	総合評価に係る専門家所見(主なもの)
		目標に向けた取組の進捗	支援措置の活用と地域独自の取組の状況	取組全体にわたる事業の進捗と政策課題の解決	
奈良公園観光地域活性化総合特区 (奈良県)	3.3	2.5 進捗度 ・奈良市の観光入込客数の増加 66% ・奈良市の宿泊者数の増加 29% ・奈良市の観光消費額の増加 38%	3.8 地域独自の取組 ・創業支援資金 ・宿泊施設の新設、増設にかかる 税制優遇 等	3.5	<ul style="list-style-type: none"> ・インバウンド客に代わる当面のターゲットとして、奈良市の価値が分かる方へ重点を置くなど再設定が求められるほか、アフターコロナを見据え、地域通訳案内士の具体的な活用方法について官民連携で検討していくことが望ましい。 ・今後都市間競争が激化する中、奈良公園のこれまでの歴史文化や自然を基盤としながらも、DX推進を見据えたデジタル技術を駆使した見せ方や楽しみ方、SDGsを意識した公園としてのブランドを打ち出すなど、次なるステップの機会と捉えるべき。 ・来訪者数に左右されない取り組みを高く評価する。改修など受け入れ整備に注力している点は今後、大きな成果に結びつくだろう。 ・資源の活用という面については、Wi-Fi整備やデジタルサイネージ、あるいはイベント開催など、抜本的に魅力を高め活用を促進するようなものとなっているとは言いがたく、資源維持を進めつつ、いかに新たな活用の方策を提示していくかは、もう一段階工夫が求められる。

総合特別区域評価・調査検討会における評価結果の概要(令和2年度)

2. 分野別状況 (2)地域活性化総合特区 ④観光等分野(4/4)

	総合評価 (ⅠとⅡとⅢを1:1:2の割合で計算)	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	総合評価に係る専門家所見(主なもの)
		目標に向けた取組の進捗	支援措置の活用と地域独自の取組の状況	取組全体にわたる事業の進捗と政策課題の解決	
国際医療交流の拠点づくり「りんくうタウン・泉佐野市域」地域活性化総合特区 (大阪府、泉佐野市)	3.1	2.3 進捗度 ・国際医療交流の推進 40% ・訪日外国人へのホスピタリティや地域魅力の向上による訪日促進 -%	3.3 規制の特例等 ・地域限定特例通訳案内士育成等事業 等 地域独自の取組 ・国際医療交流の拠点づくり促進補助金 ・宿泊施設設置奨励金 等	3.3	<p>・医療と観光の連携が希薄な印象を受ける。コロナの収束時期が見通せない中、インバウンド客に代わる当面のターゲットの明確化が求められる。</p> <p>・関空ゲートシティとして関空以南の国際的観光資源への回遊ルートの送客拠点構想は時機を得ているが、実現に向けては、りんくうタウンに宿泊・滞在し、消費をしてもらうための必然性を考えたときに本特区を活用したヘルス(ウェルネス)をテーマとした周遊ルートの設定、国際ブランドのホテル誘致、特区ガイドによるおもてなしの高度化が望まれ、今後の具体的な取組みに期待したい。</p> <p>・国際医療交流の推進については、ニーズそのものが減少するこの状況下においても健闘されていることが窺え、未達成ではあるものの評価</p> <p>・エアポートフロントの宿泊拠点は、交通利便性を優先した中継地としての役割が大きく、地域におけるより以上の消費にあまり期待できないところがある。現在、関西空港以南への回遊ルートの設定によるゲートシティとしての位置づけを目指しているが、回遊ルートがある程度確立したとしてもより丁寧に来訪者の滞在時のニーズなどを把握し、特区ガイドが地域のコンシェルジュとなってゲートシティにおける滞在中でもより充実した滞在ならびに消費行為を行ってもらえるような対応が求められる。</p>